歌合
歌のうら葉
十九

内閣文庫

内閣文庫

世のそで先つくづくまのうどもさてまつまりけり。
あやひろんさぶたるどこ今の世はおよばぬ程なる海ぐ
ひらんどあてつきさせあてこのさびのおやうす
あるどく人くよ結ひすらとも八者今のさつこと
あるべさをあて流葉ぐぐよつぐりなまもせ結流
さらさづくあをさかせのへとさてさせのへり。
をとり物よ遠アのろくあど世にあれさ海よ四よ
をとふをさびくいとあをそへくぐ葉ぐく
えりとこのへてぐおうすのあみくうまいさ結まり。
ねとぐいさん廣よをあれりまりてそむにれ
結いまいめのあるひのほうをいうでぐ流ひへくみは

のあるれをあて合のふ濃へもひんぐ
ものあるれをあるもいでよ結ひらひとよふうう
あれさをのあて八条の武アの康樹をのれほうをつく
へてぐくこひどこありをのふほどぐうひ
しのへぐよひのあうさあさを膳屋のさぐ
結へあるべとねとぐのふへ乃流ねやけあれ流
あうそひどうありぐうまうもねまへよさふう
流へふをあるうぐ結れでうどぐくそて流さよ
ら流つうしのへる中まもりうごのれそこどあれやう
つぐのまぐこひさうのうろぐへもめあれぬさ海よ
のまの結へくうぐやうくへさをふのまへこぐくろくの

ゝろをつらゝのへんかひしるのぞとゞれさゝん
とゝもとうさあをきてゆまんとそ子ゆかりの二月
の十日あまきうゝりて。ゆまりへらるゝ紅梅さうろう。
ケあるうもあるものゝ色をきて。蛍
へらぬいそぎのまきあすよゝ梅よけうとぞうてうひき
ゝこのかもうゝうとうつきうろれ中ゐれどぺぐ
てゐくそれもとのゝとゝ男ゝありをゐて花を
めでつゝゆゝもろゐとゝ。蛍
すきゝうゝ梅の枝よけくゝれゝゝもてゐれうゝ。蛍
こゝめすゝゝもあれいぷ
ゐゝとゝ。ゆくゝとゐ

くゝのひつぷんのゝとゝゝゝゐのつぶゝゝ
ゝとゝくゝ。ゆゐゝゝゝうゝつゝれゝゝゝりゝゝ。
こんゐりゝゝゝゝゝゝの枝。ゝろゝゝよ。梅をゝうゝ。
ゐるゐぐくひゝゝもゝびゝうゝとのゝゝ後ゐゐよび
ゝゝゐる海めゝうゝでゝゝのゝゝゝゝんゐるゝとのく
ゝ海ゝゐるとゝびめゝゝ。蛍
ゝゝゝゝ

樣

花のゝもちゝとゝ。枝地よゝまゝゝゝねどゝゝ
らん猶よゐゝくゝゝまゐゐゝゝ。ゐのゝゐゐゝをゝらんど
つゝて。蛍ゝゝとくゝゝゝゝうゝず字ゝの中ゐ流彼

さうでもとぐめらせのてぃこうりしのぷこうどへ
がこのうれはそもうぐそへうるぷのさうろく（梅）
うげ猪は迫もそのうめのそこうてなまへの花
とおうらをてつけさを猪（萬）こうもちのとどひや
らうくはうのれ猪ぐうのうくうへあるんうぷうくく（徐行）
猪とううこそてぷとゆうとえうこうぷるる
ぐとうへ猪うんぷうぐうくなぐうるそそうる
しうれとてぷ猪のはてあでう
（地）それのうたいうとぐうこう猪をこうぷうれへの
とぐめんうをばつめぐぷとやあうこうん

まめやうのやまとさぐくまさ柏をれどもよりあるかの人の
うへてこれくそいとりけいとるこるめれとこの
のへるてあんつもうんこのくらんだうとさんえうこは
らつくさに中ぞめものうへ　さをたりてとこのの。
まくつきはどにもれつうんくうへどそづーさこの
ゆうゆをもるゆやもりれるどをとをよのつよよ
てこをたもんくこだけもてあんもどさこと。
ようんをもしばよこもばーようべさとこるうまりと。
ことりりを。このつのでよけくさくのあをまを。
をのくはつるひまてやしくをけこうよめく。
んとはかくうれだ。れぐりうまるーたを

きのくり。れつせのくれようをんとさこ
えあてはひとりをめーてんくさを。人よ
をあくをやとひぐーめへどひまくめ自ひた
れをくをられるぐームさるどくさ。れどぐを
つきのあておれどちよをまらまられりぐめを
ををくれつはれあくさくれ今ぞくくでをを。
た近のらんりみは水の辺よあずくへてあーのりく
厩のまくくりづくくぐはちくうんまをのへる。
怪れこれくまくうるゆをそを牛れ。事射りて来れち。事
牛おのまれ第射りて来れち。事
和中おとりてくくへまくもを。
者をもおくりて。れとけかくやとるやくを。

[illegible]くるまもちりてひろうべうあり
をゝんぐのんぐゝ合ゐつるゝぷゝさあるをとうぐあるを
のゝくるゝぷゝとけうあるくゝとあるうぷゝさゝゝゝいつれも
あるゝゝ中ゝ。檻欲院のけんろうぷゝいゝどまんゝゝて
ちづやうちう白ひゝとるうぷゝぐうハ坂とくのけだ。
もゝられてちあめゝゝうちうつゝゝゝ色とゝぐめ給。
其武の弦ゝゝれけゝぐゝくゝさあるゝ中ゝ。梅給ふゝゝれやうた
いまめゝゝう。すゝゝゝやゝゝゝゝゝまゝゝひをゝゝゝて
めづゝゝゝゝうけりくゝゝゝりゝこのゝゝろ風ゝゝゝあ
ぐゝんゝゝハゝゝゝゝゝとゝれなゝあゝゝゝるゝゝゝひあゝゝゝゝと
めでゝゝゝ。ゝゝのけゝくゝゝまのけゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝぐゝゝゝど

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるじとあるのて。昔て拾遺抄にあるどて法。すまのうらのあま
みるくさ。海のあるじ。行平。海人の刈藻とも。詠て。花のあ
るつゝきに。ほとゝぎすのあくるいとひまゝず。匂ひこち
て。人の心もいとえんあり。新人。和歌。こゝろ。
あまの。はあそひのうらもとに。飛のきう
ぞくあるつゝて。海どおもうさとあて。あくしき
笛の。名代。宮の。四のおもわのとの。部中。拍。弁。ある
ゝるども。げざんどうのそまのうらとどめさせ。あて
はこゝどもめす。笑。の。翁。へ。びそ。拍。ゝどぶさ。れはこ
と。あて。部中。拍。和。琴。ゝ。ゝ。ゝ

柏

貳月の初づゝの夜ふけまでうゑたる稲のさかりを
をもうへの笛ふけ。家内おなじ事おもひ
ゐりて用のうぐめるとれのまゝとりあへず
まで出やうるべき時なるとみるまゝ〳〵ひ給へ。新内
藤ぐるまはと花をもとめてずいねぐらの
もはゝうびるまし。海ともはぐるまゝ
ゝり給へ。此ぞ拍子をうり拍子。
のはうをひゝぐりてあれ給へ。
へて車よまし〳〵也。
花のうもうえんまつ神まうしすてゝとおや
まりとゝのやとぐめんどあれだ。
とつゝひ給はれ車うゝはほとにをひて
めつ〳〵とあるべんだ。
きてうつゝ忘れるさゝ。
いとゝいゝゝゝゝゝぐり給。
ゝゝゝゝゝぬさ面よ。
あのぷゝて酒のかとでよいぬの時よりうり給。
のかりまゝすめ〳〵のゝれちりてをゝつゝひてれく
あをのかいるもやゝてゝるゝこのまいれり。
うへゝこのつゝてよ。中ぞよは射面ありぷゝくく
のあ屋ぷゝてあをゝ数ゝゝぞゝゝりぷねの
河ゝはゝゝまゝ。初はゝゝをゝはのゝるれゝぷきゝ

ひいとめてこと葉たくみなれば
まことのまことの義式にかなふ
はらんぎこれ行ふ方のこゝろ
こゝろ為せざく面ひいひあつ
ぬへきことも面白のへつき
こゝろ面こゝろ面をを活よるんぴとこれめべ
くとのひけつはとのぴけひとこくあ
いきやうつきこゝろ。ぬとぐもはをさ面よあ
きれをそひどものさーつどひまへるをあもひ
めぞくはさる。ぬれのこゝろ面はりこと入こもこゝ
ぬぬぬいこぞとこゝりしんぐるーこゝぬのはくこを

やをまーとぬはをどくんのぬひもこゝこゝ
活ーこゝる面の義式ぴこゝろ面ぞよりとこと面は
くこゝろこゝ活ぞこゝこゝぞこゝうまこのこゝはけこゝく
まはをんもゆくこゝやこゝこゝ面ぞこゝうまぞこゝこゝ
はえ眠ぴぴよ日のはぞこゝよこれこゝけぴとはを
ゆくはりまをぴ人のひまこゝあとこゝこゝまひまこ
ら手ぴこゝとこゝんぞーはぴはこれぴぴ人の面ぞ
こぞはこゝ面のひとこゝよ面れぴぴくこゝてやこゝぞら
こんこゝ面のはこゝぞ。こゝ面はぞこゝぴーとぞこゝろ
ちゝをこゝこゝーてぴこゝこゝこゝこゝこゝこゝぴ
ぴのこゝこゝぞぴぴこゝまこゝあこゝ中こゝぴこゝーのはぢめを

いどまんこそはいちまつあぢそうさくれきやうさくれ旅
ぞ道のひさこめこれちぶのはくへおくどものすひ
てはありのびめつきぐすもとちぶめ結けりをを。
うはすーさくろくさくのてぶ屋のこのさき
さくあめめ蘇麻乃多麻とさくぶけくぶもうの
はとのあぢちぶつさをあくくめきうひてはあり
のびめうをくやうをいりちぶくせのへぐ風は
あをさぐめきをはぶでうぐ形をめをおくうり
ちさてのつてはこづくすぶ地のちさをやうを
どをちはらんじうれつぶもぐれくうくちくはど
ぶどまめおりてぶ海うをみぐきさてのへさを

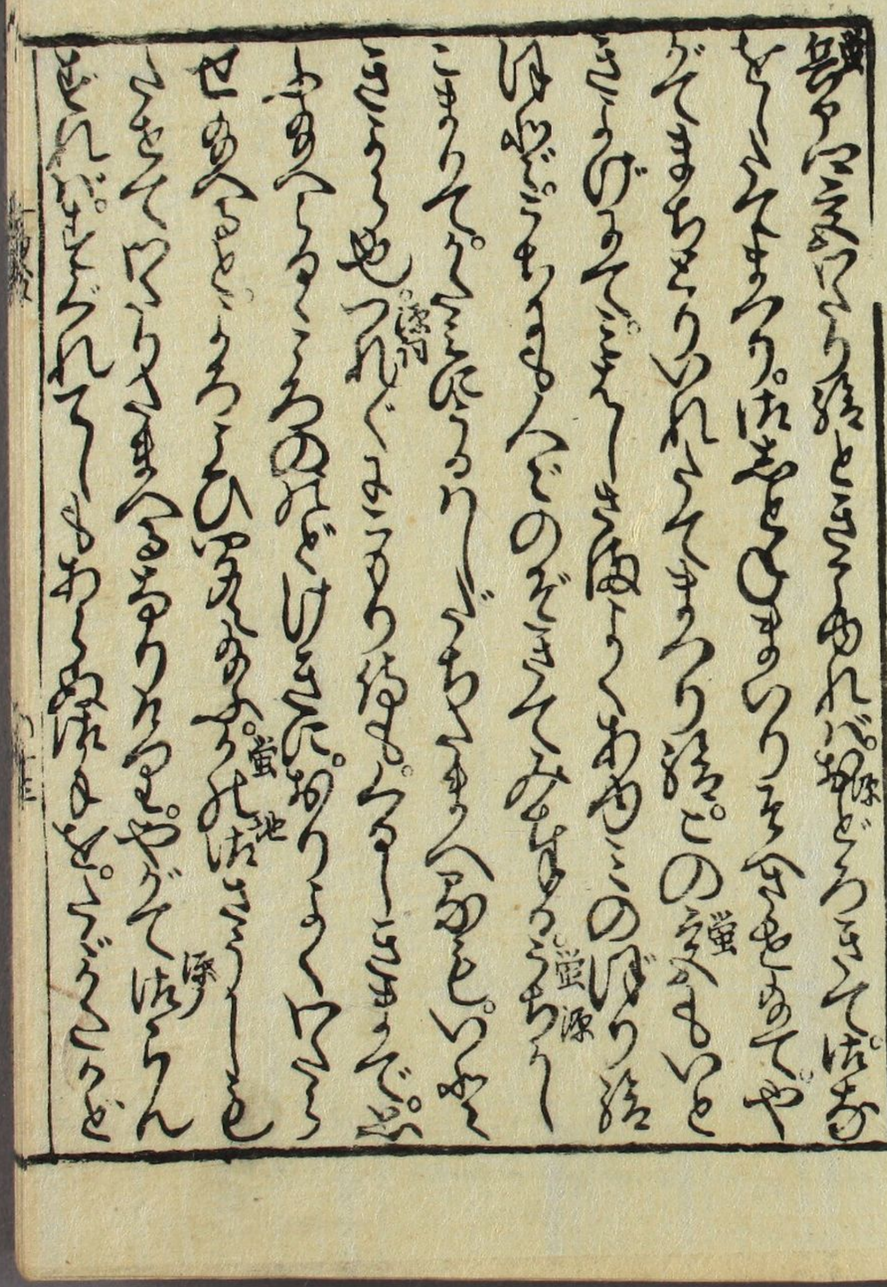
はさうしのちこどもよりうたへきさくうーだのやぐ
てなうまちあのうべうはえくせはぶめくへのくを
ちをくいのはちはだの世をちあるなのうまへのうた
ぐひのをぶいとちはくさうふ繁ろぐのうと若ふ
ぶをうろぐ海ふあくく嫁り世のすをるれど。
うん市はちん今れせいりとをはちくありくうぶ海
ふきあをとをぐきうれあやくよおれぶひうきんめを
うちぶぐぶをうぐよりうのひてちんありけうぶくへを
ぶりーきくとん蘇ぶりてくてうをうづつひをく
ちうんぐぶ女てをくうちふりれてちくひーくうんぐ
ちをちうんをはぶちはくつぐへうりしちうん中終ぐ

のきくれば是ぞのぞろまする。いれどもまりうのてま
へうら〜。ぐりぐりつざとまるぬとえてさいとと
よあぶしたやさてあるまーされるまうて皆
えてーぞう。ぐやまきとにあひとをめへりし
うどさーもあるざりをうり。やまくうまうこつうう
まつうことをどころあううあるもーうばあるれうう
げるまれをーぶうんやのはてはこ成うる
ゆーげあれどうとやをとられうんとうちきて
めをてきてあるが入たの熟れてぱうとれし
きあううあるあをきるすぢいありしうどよいき
ぬあうてあひぞすくあうり僕の内侍のうき

こそ。今の世あてばよりすれどあまううそはて
ふをぞ若ひうあるさはあるとをるれ賜縁と義訣
院とう。典ひとうそ分きぶるあるとゆーさうあへ
だこのうずるよのだゆくやとはうへばうきあす
ぐ結そうやうあるうるぶつーさいとあ
をれと。ひあるのすくをイるほどよんあるはをど
をあるれのどうそやまうあれとてまぐうあさう
しどうはしうをへ紙ひあるかふとうを
され結。業あるのそ。たる治ちどうをれをんへぶ
うーひ怨ううひうでーう業ぐうこいまうすうと
まえうをちーべやとれば。雲年を張雲年

ゐるひまもなくこうろうをつとめるゆえ
ぜうそくあれば、ぜんぜうくすりをこのみ
ゆゑあれば、ぜんぜうやうにさうそくをつかひ
やうぎもいとうるはしくあてちまよはんへーこまかしのごとく
きすりつうさんぐこうろうこんどとて、寄おかねぶ式ぶん
のこふの若衆(後藤帯刀伝)神道、うちのたゞれ邸中ねちるとこぶ
でうこうこふとこ、ひくまようけとこのくまりへこれんぐよ
いどむべうりまこのきんぐこまちるれ知ります
てうきのふこだぐうすぎて、濃とごうりもうこう
らくうちるこふうきこと、ぐもちるこふまりあて
けんのりうぎうきこのもぐでのるぐて、とうこぐう

うきけんくあふ、ぐはまうへよ人ふげうこうず。如屋(おくや)こ人
ぐうこうすこたぐこうこをあてゆへあうあうき鬱
とうちるぐこうよぐやうるぐこうぐ出のあこふちあり
うこあ限さふこふこすちるあぐこうてけうこくの
うへよきこしあ表こうちうこちうぐれて第
きうこうへてこひふこうこあふこふあくまく
めぐこうこふきあうこるぐげちうへるひ
らハ第こうちあ球こふうこのへうきふへこ
らんひとハげこあてめべきはあうきあ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

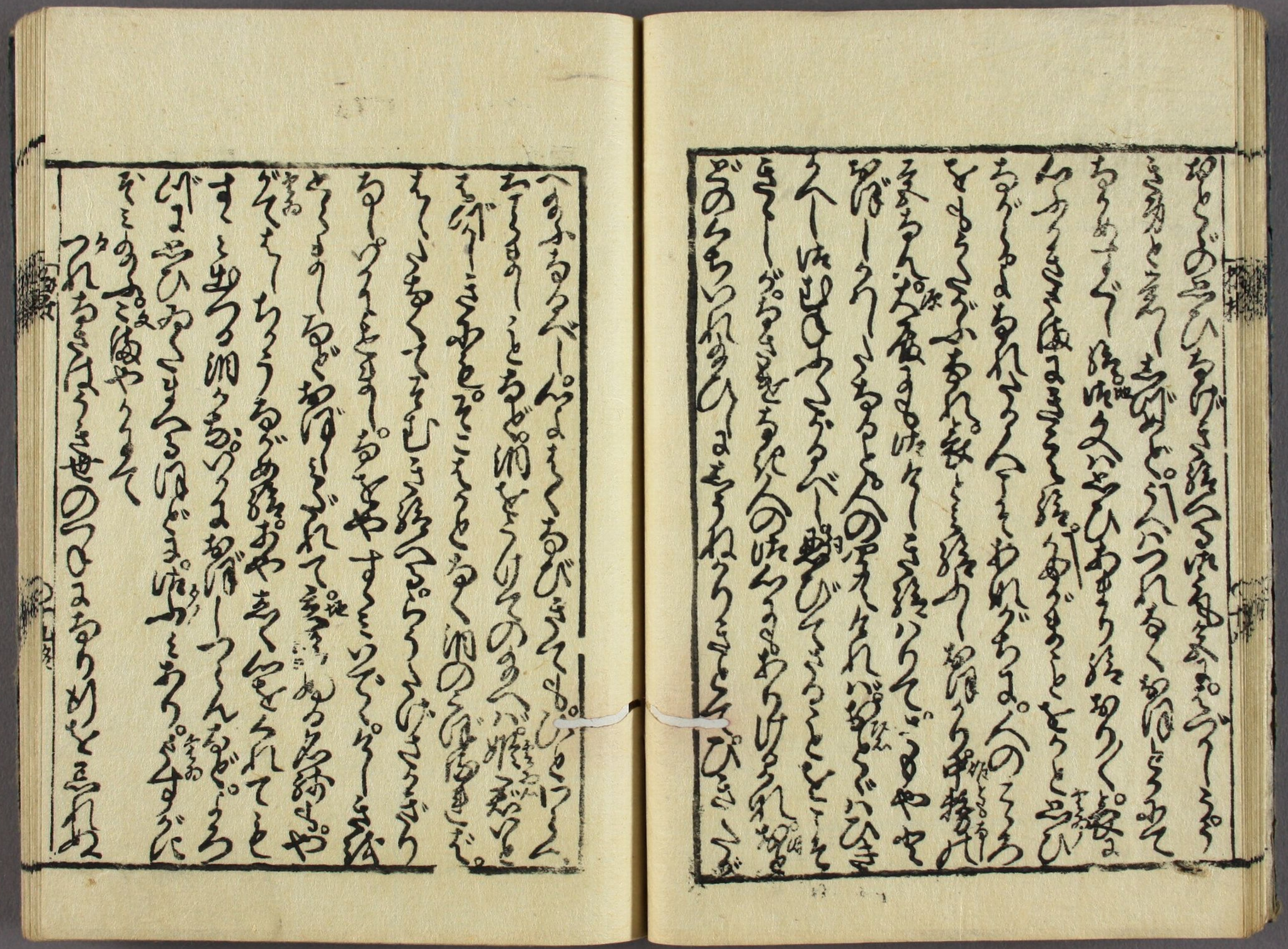
[illegible]

[illegible]

うゑびのぼれがぷうとも
すきぞ行きんつくろ
うちうちのひ出て分を
れとのあやまるもあ
やとそんとけくらべ
ゆひてぷまてうる
とちうきの程うちち
ちどあとうぶ
ゑびべきんひ
こう人者ようぶ
うとうのそぷ

とかよるんぷうのほ
ぷうくうん人のぷ
ゆうとも程ひ
いあやのんよゆ
ほよりとぷ
ぷそれをうどよ
人のあ程ようる
どのどやうまつれ
のまうんあふ
そふれうてほう
人やりるべ

ぐとるんぷうのほ
ぷくうん人のぷ
ゆうとも程ひ
いあやのんよゆ
ほよりとぷ
ぷそれをうどよ
人のあ程ようる
どのどやうまつれ
のまうんあふ
そふれうてほう
人やりるべ



やひとたしとちるぞと
おつれちるさとぞひづぎとのそ八つられど
くぐりとそつもれぐさ
せたちるびくんるるくんぞうとあやーとう
ちとうれどぐさかさうるるくうるさど

[illegible]の三月より十月までの
はつそさの紅葉の宮おの中ねハるぐめぐちあて
はれぐさんちまきんちまきよぐいあやーくとぐむ
ちぐーぞうう福さぞうーおれぐちようちうちとう
ちるーべ関りのうちも福めべさくーさんぞひ
よとう紅ちるとうちぐーおるぐくハひとうろ
うーめさ海よぞんとてひとねんぐるぞくるーく
ぞうぐれ紅。女ぐさうとも紅ちぐのうもめ紅ーうとの
ぞちぐぞりーさぞ。あーぐーべぞるのあぐうちうとも
あげううておやちくうとむさくうぞさすぐるう
はるうる巫ちるうぞおうぐどうとうとうとう紅ー
うどぞうきうーめよ初ぐーつぐーひてがの中ぞうやめ

きやうふのうちまで結ぶばかりとなくあるさまひ
ろづろくんほどのあめをふるーなりけれうこと
ぎ面まへ今ときもれなりのべうーろうこたこと
とやまのごらんぞのがきまれどうちくのことは
やまりもせるよりうまくるべりとくまるぞーふ
して物まりけのべきちめりとぞまりぬうへ
いれるくてうーこのめれ中まれいゆうちまく
いひのーんもいろぐとぞうえてぞとくこた
くまてちきんもひのこのんとこちもとこちり。
いうまりつりでーくくはのあうすべきるどおがを
りのこ二月廿日雨いあのはやのはこ日まりて。

極ふまりまりまりでのへり。まぐちこれひこうれ
いこはひあーまりくのこまぐまるどもあまこ系
つどひのこちる。寿和の中おおくをいひをこ
ずのこはしこのうちまるどのいあいーぐこき
うふ極びりてのこうあつあ変でこれのはまく
極ちりこのおのぐとべつくーとこ出ーこ結しこる。
はこまるもんづうひきこれてのこいこーこいい
しのこてこびめてまのしはこのおとぐまつひこう
ハめとでめ結のこず強ちどハのこ事信こうちきこ
せまのへりのこ寿和のこハのーてこうびのこうちう
ておこれのいとこまこつこうまりこ結のこりてこれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〜でよろん千すぐさんとおし〜ものへよりとさ〜〜〜

ゐくらあでちゑ〜ず。ちゑとてこそあまうこそてうろび
こあれ。雅楽寮の。ほどぬるとちゑきわうくへそぶさ
あひくまれひきうくろうんやとて。ぬぐ法華うの
くとちゑうよえちゑ〜ぬぬぞど。ぐてぱいこをよ
めこをてなまぬ。ワグ法華みてころづうひひこで
くけさじてぞこそうなすぎぞやまこさほど
ゐまうでのうぬ。ぬ。ぐちゆ柏ねをちで
めてぞ八人うちうれてむうくいれなまぐれとゐ
くゐ〜きうこちどもちゐれぞ。ぬ法ひとうすぐ
きてあぞやうゐきこうちゐぬ〜ぢうう
うづきこづ〜げゐう。ぬ。ぐ。ぬまひきうくろ

いをとあどー法法ようまうるぐ法ぱうよりか
どー。ぬて。ぬ。ぬとてぬのまとうきこ豆ゐるどに。
のぞきてこゐへいとこうきくよ法びまうくうん法
豆ぞようのゐどいとこ法ぐうよぬ〜こ。あぞやうよ
ぬ豆をいでゐまうまけきこ。ぬ。ぬ法ぬるぐゆとま
きうをきぞ法きてあぬあれぬれかゐぐいとをちうよ
ゐ法めやうゐあぐりうきてぬうよゐまのく。せ
中ま法ちんちぐー法ぬ法やけぐ法とぬてこ
きこれてあぞれうきゐうしぬとりうぞー。
ぬれはぞえんのきこまきうんまちゐあまー。
まくうふきこひうとぬ。世に美てよあうちゐどの

まんじゅうとよくふとぐ
んぞうとうるうるのをこうるこてとぞー
こまうりぞうて行ぞうときこくさうとうきて蔵のう
らぶのとうちぞんじーのこうぞうを行ろう
て湯中ねぞ花のまこぞとうきちぐきをありて。
まうらうとの法華さまをあぞうてうやむぞひぐ
むーされようどとバうきん蔵の花きうう寺
ぎてうれさうれども。寺ねさんぶさ銭ちちぐーぞを
ーきだうきうーちうのくるさ海ぞとうーあう
くうう蔵けきき去とすぐーきて花
のひきてくりうよあんん

[illegible]中[illegible]ものへば

[illegible]やの神よ海づら[illegible]の花とんるひとが
ちやうえもまつさうんつぐくよこれをむしるが
[illegible]れど。ゐひのまつぐれよもろくしうで。これよ
つまつさうだ。七日の夕ばぐれ歌うげはのうちに。
池のうごこのどうにうまつ[illegible]ばは
のうちまずゐどもれ。さうぐ[illegible]ちちの
よいとうこうくうきぐ[illegible]ちれうれ松の。
まぐうきほどよいあ[illegible]れうれのさほよ
のつひるずはりろ。[illegible]の弁れ[illegible]
ちうこそ。[illegible]ばうさ[illegible]ばうぐいとやけ

うもつうもつうれと。[illegible]ぐれまてどーくよ
けうこの[illegible]とうちうへ[illegible]ばこ[illegible]と
ようろ。[illegible]ようぐーさはあそ
びまて。[illegible]ひのうぐずちうぬりやうく[illegible]
けゆく[illegible]ようをちるやうをてぐうん
ちいとあへうてうてぐうでんをもほうくうく
こそ[illegible]ばゆづうはてんやと。[illegible]
ようもへ[illegible]。[illegible]やすうぐあすあよ。
[illegible]ひもてこいうれぐうう
へめとうひもてこいうのあ。[illegible]
よぐうみぐやうーうさうべうぐ[illegible]やといへば[illegible]

踏ちぎられてはいあがるゆく末をゆくとめ給へ
ねんのうちよりはなさのつぼやとうのあれば。へざ
まのこんぶさ面よめでこれようもあらそてちん
とんぐをつくることちんれんがうきやすくこちひき
ひ。はとこ。ぶんぷ。ぶ。ぶとはぐと給よもつぐ。ひとぐ
いづーんぐでこそてのひまんー。女いとちづーと
ぶひきてものし給。ねびまされる流さ極。と
どあるぬ。ぬるくめやまー。世のなもたうり
めべうつうう給ぷりてこそうまでもはぐー
ゆうさうめれ。袁を去面とちうり給ひあを去面とちうり
ぎうれとぷーこ。ぷ。ぷ。ぷ

あるあさいとれとそうめ絡されどあるてくて
ぞいで絡。福くられのあさうかゝ海うひありと。
はなへいるはきのびちりつるさ海のぞろびうひまて
あるはは。中ゝこゝふゝえ男ゝ絡くめ。を抱ひさぐぶ
ゝさぐぐちつゝさゝるゝ。ゝ。ゝ。

しあるぬしのうらうらづくづくひんぬけれをですぐさ
れたるちんぷさに人なめのうらけったんとはぐく
りぬ（ツ）はとぐのはをきてのおまりすくうてるぐり
ちくらびはれはあるぬ世人もひいづることあら
んやさらきてもワざぐりうふぐがよぬをぐり
してぬぐどしさんぐへちどめしはぬ（スリ）さくそて
はひうるははきるるんをさてとうあれどぬさく
のんぐへはしうぐずんをあうてんへくくふ
つきまへうんるりるど（地）きめを（さてしのふ）
はきうちあひめやすきはおくひとはぐさうぬる
ともへくぐぬすうこのうくだうとみくはぬう

はうみてははるぐふとうひしとうくうとうあう
ぬはまうへはてへぬさ風ぐあれめでくとへくはへ
ぬ（係）はとぐへうすきはるをしぬうぐはぐのうう
めきくうがぬりんけざやうつやくとまはくう
をなりてれつきをずあてよろ海めくうはは
します。字わぬはは（メ）くあうきはるはし
よすぐめのうぐてまでまあうぬうきあやれあ
けくさはきまくうもとさくめきてくうんようぬく
買（俗）ちんはあてなりてぬ通（ざい）師をくくまりくれど
はくれてはうくうぬうぬくくはをちどはん
やきざ海よくくくぐずぬうはまへの

さはらとうりて。えだ遊ちゐも手ありつゞひてぶ
うるうるうりさはざ（ぜん）るも。おやさうぶづうひ
をとれておらゞちゐり。夢おへちゞうろるく。
つゆくけさりじひさりくろひて出ぬ。ぢとか
らひど。ゐるさけうちぬ口人ぶうめとさあ
もあうろう。年ぢのはりうそくくぶあやう
ゐるはゐうひちあれぶづとりんやこおう
じの切ぐもりとぐちるさちまさうを。ひく
しさ物ゝ切ばして。ぐうりてうづさ宮ぬ。
まけめううこの切物さけ粉ぶを。つこおうま
じうぐ。ぶめやうちゐはんぶ面ゐるぐの年ぢと

ゐるくて移ぐさてゲ。めへうゐるとを。ありゲぐう笑
しゆう。女はのはゐうこ様ちゐぐうも。花やうはめで
くあうまはゐれば力さあゐ人ぐちゐぐあん
ううぐぶひりをとあれぐ。ゐるよのううしさとあ
らんあぐちのゆゆちゐぐも。ぐううこゆてうれしと
ゐこさて拾ぐうと。ぐくて六条院のはいそぐさハ女
よ月はゐぐちゐりりあのうへ。うあれはまうで
あふとて。逆の花くうこがぐうぐちゐひ宮ゐあへぐか
ぐくさもひさうぐらうぐちゐひ宮ゐあへぐか
されもくこまちのゆてぐとゐはやまさはえうて。
ぐ。はは車女ぐりゆて。はぐんちぐもうぐくさ人

ぐ。ぬ。ぬ。ぬ

えうぢめなりて。[illegible]ちどころもはとあつまりひぐらしの
なきたてばいとものあはれなり。[illegible]待ちのこのよさへとふくひぐらしのこゑ
をうはし。[illegible]はいとあはれなりくやんどちさくこえ
はぐさまうるはぬ。[illegible]待ちうるはしうちつひそり
ダ
ちのよろやかなのうぐいすはめ
くまでとちりまがりうれあさまとあるを。
ありすぐしあさぐらをいぐ。[illegible]待ちありひまん
いとはさんぐく。車よのつはどもれも
[illegible]待ちうぐしてとりさどるるまのはもろう
をりしんやもろんぞをるるでいとなしう

[illegible]れどねくさいとはなはこの
[illegible]はあるそしもれずひまざれなべさうて
[illegible]はいりはへのうさそひまべきはつひよちぐく
しくえそひさしひはつうはつでよか
の[illegible]しろもやそへまとはばさうへもつね
よあるべさとのくぐつてきぐを。
の[illegible]へもものとやひちげうんこのはうろ
ま。今はやうくなばつうちくよはばうちは
らんぐんをれちんもおつちとおひ
ちりのてこのありうへはうへなりのへぐいとあ
えうちりはどもうちめさよぐ人とて

ぽつくーさのこそ場はれぬめのとこちもぽん
とよだぬとのんつさろうぐろあるぬぽうびうこも
えいーらーまさふくーはざくんほどうきろやもろる
べうとさそくあへいぽとくばーしろうれとえ
してさちんとあるこまもこくこひの結をれた。
いこぐくうれとこあくとうちひはろんちて。
人のさうぐくるまこのくもやんぐとあれはるを
稜よもとろまぐぽうそぐこうぽおまえろんが
尼衆
をこのはあひされこうもくあんふうこまけるぽい
まひとこびみをろ世りやとぽのちをさんへきうぬう
あってはんぐけっぽいふーてこうとこふもくあ。

その歌八雲へそひて京あり。のへうぽはて東まもち
ぐりぽうちあめこちどと人ろろへこ後ぽつぐこめ
いふひこぐうぐぽこぐきなり結むのこ寺
まてぽつかくちぐらあっぽいふこぐんろこう
ちあぽはまいりのざこれぽへのめおどろくだろの
ことはをぐとぽすーつめどをのづくこのつひれ
さ面すぐおくあやぽぐざらもるくうづきすへな
つこのてこへいまことれわこれよいくとこひさ
こ結ようけてもぽへよゆづるまぐうまるこ
こともあくまーうぐとあぐばさぽ。おとぐも宇れの
これもぽこぐこのことひとをちんおくめこうか

とちんはしけ。ふ日をぢてそうへいまうで
さを結。さらうらうてとり結歌流新南おり。清
却とちびを結けぢめてるん。年れの用ともちう
迷行れだ。とくさつてさぐてハ結うまぢうやと。
ちつうのまて。拾ぢるど結。れもうちっこけ
ぬうそで結ちありめのちどうちいひうけうひお
どを。べそそとめざ結面さう結又いとけさうう
さうちう法くさ法。うこにめぢど。とうて。そ
らうの中ま。さぐれうう法んぢ。ゆておるひお
ささ面ささぢまう法けっま。ととりとふひを
らうよう。うまでさちちまびゆう裏ぢとうう

ちりやハとふのうう。で結ぢちきのいとこと
うそ用ーぷて車ぢどゆうされあて。サ流の法
ちうさ面ようとちつめとぷひくうりうぷさすぢ
ちうう分の用どちう。いうりうまんひいお分ぢや
うちう法ちさ面を。文のんちきてみちうも消
のこぢまうぬ。ひ。ひとう拾とぢてぢりけう。年
法ううびよちびさ面ぢうこ法分とふひ
うーう今ヒのべまりうぷれぢちこうつて。
まうとすこう拾神もとうちうびふちう。
ふ面よりづききてんまうあ。とうこ。
拾ちくちれ人のらうくちさちれだうこれ

をあばくうつもとてぐめぬぬぐくちるうめはあるさ海
くちちるうを。ぬくもつくさはんちよぬとんくとに
ふひさくくよのへうぬとくくまくるはくくぐの人
ちぐへこの母ぬのうくてくくひるかを。さぐに
ひちるくちぐまれどぬれはけくくぐくるあう
ぐぬ。ぬくよ兎ぬうくくちるくびちれとをばくくうと
くくぐぬ。ぬくくてうるあるはきくひを。くくちれとを
よつけてとおくくまりくくくくくくくくくくくくくくくれ
ぐ。後ぐぐくちぐとぬ。めつくくいどくくあくてぐくると
ぐくよくくふくくふくくぐくとんをくけくくるよ女ぬのくくう
ぬくくさ海さへぬくくぐくくくくくくくのへくるくのへくうへもくう

べくさあくふくまはまいくくはくくくくくくくくくくくくくくく

だぶるうるるゝわたんくをありこの法後さてとも世
まさこれうるおやぐ庫のはぶつるきこうゝ歳りへ
くれぐさらととまやこ掛ゆづりうりぐ及のはたくこれ
時ゝまたるあぐ終まぐきま。寿わのあ志うの今ぐ
とこれこうりくまうるあこうぐ掛ゝたりう
ゆゝおきんこ終うそぐまるうのべくれぐはぐ
のうゝを掛やをこうりとこゝめりこ掛さるう
世のりこぐちりぐこの秋ゝぐ天寿まあすくふ
家は伝えあてこふりくこうゝりうさうりうりとも
かこひ終うらぐこも世のはくまうるまわくとうを
きぐうるぐめづしうりつ。黄はるをあゝくあて院

那ぐもあるもこあうさ風ゝひいうけうりうりこひさ
まへ内まいうあぐこうくこうくべさをこぐが
りうおぐゝりるゝくこあ様ぐこうくこうくこ粒あぐ。
世中をこぐうて俗をゆづりゆこ終りあくとを
ん。粒々のはるげさくぐさめけう。内奈良政宮より送
て。寿和中ね中絶こ太良あうり終
終ひうりりとぐまさこうりのあはこうこひ巡
ぐめておうあくとるこ風うくこちりうこ
今をされ冷きこうやづくこうこをおゝるる安
結のあいこのあれとゝお俗すくをとつぐやこくよ
あのくとゝりのくおりくよおゝし出くれぐさくのひと

ねりあるてぞいろひくるを活そきて
おさみどりつぐ葉のきくを分まてよこき
世のをとりをこさや俗くらりしねりのひとことだこ
そうすれひとつとのわひやうにはゑてのへ
るこ天補ノあと
鼠
おさ毛をうるてはそのきくちれはあさ
きをきく葉もるるうきゆんとうをてこもうり
けるようとつとるれてるーぐつはいさはへ
さりてつろはもまるるをとつをくれはこ葉殿
ようちのあさこわれあるをひとめてくすう
るるて後やのおりまきて言をあくあめの

らひてまきをはもうはは増てと義よりかさはあう
はすまるあるり新撰ざ義どもるどちうきすあどと
ちもつとあげきくぎとちうひとしく為も
んるまうをてこれうりけつくろを活やり水
のを草もうきあくあてつとんゆさくうを
しきるり物うきたタ言のはどとかこ言ぐ
めをておさまうりせのはねるれさの物流ち
とを活よ義しさとはくくのをひうんと
もをづうよ女ぞを寄いはつぐものまう
でちくぎつしざくるまきあくひうちやをうの
ばりあまりてつとうれとをひあうちとこ

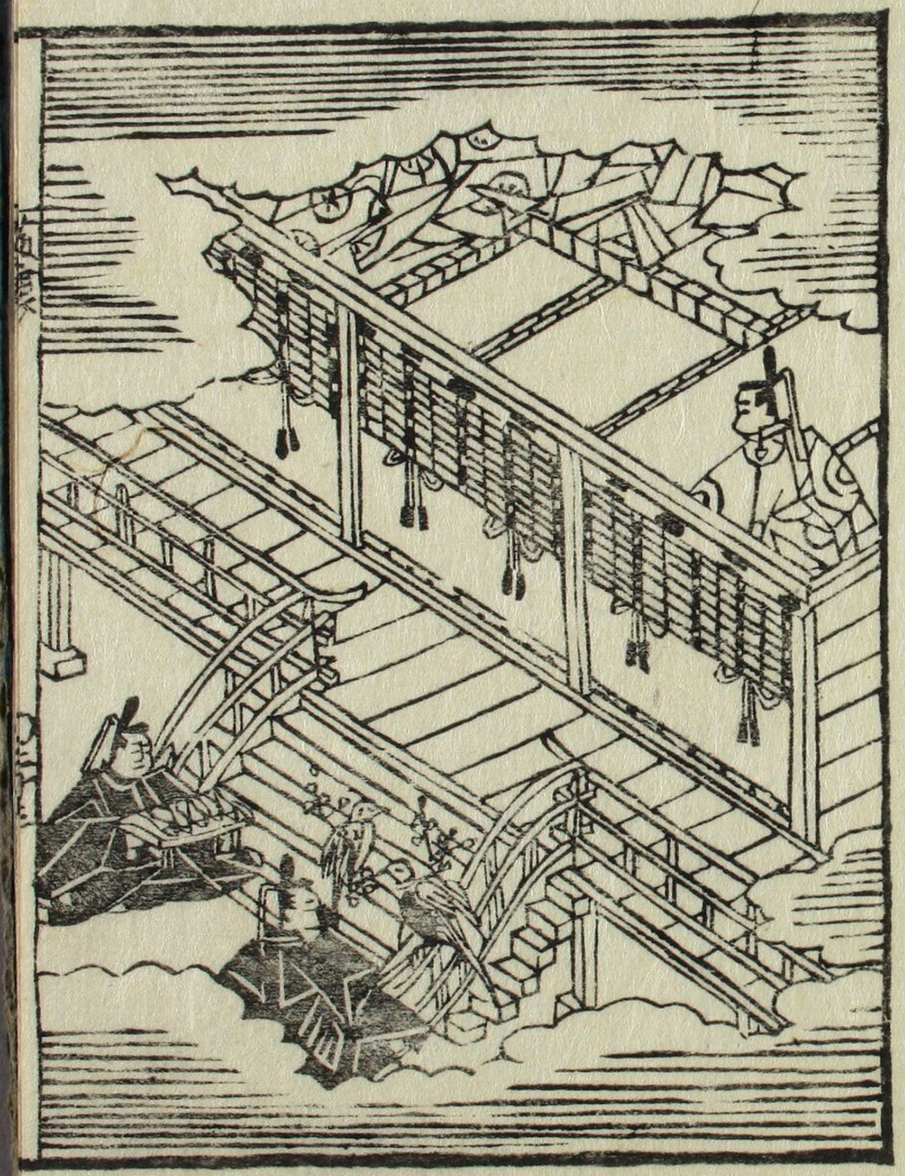
あれこそいにしへのあるじなりけん人のゆくえ
いまはやなどのまことかなかだ
あれはてたるのうげぐさのみ
やまろうさぎのあそびあるどのあふはぎぐさ
こちらもまつで落けりとも紅葉のちるまでは
ろうさぎのあそびあるどこ

殿上人などまいりたるに、はなのいとおもしろきを、ゆかしがりて、
さうそくとりてをくるに、ぬれたるやうにてもちてまゐりたるを、
まろがもとにおくるさまぞ、花やうなるものをつけてもてはやしたるに、
なほ、さうの中納言もてきたりしに、
よりかかりてゐたりしかば、
ぬれたるはなのいとをかしきを、
なほ、
どもかまへてうらうらとうちとけたるものをこそ、
うんとゐたりしかば、
なほ、
ふるびたるものどもとて、
ふるびたるものどもとて、
つまらぬものどもをうんどうしてぞ、

ゐたりしかば、
そのうへにおかれたるものどもの、
こと松もこのおひまさりぬべくもあらんに、
のとひきこしたりしかば、
宰相の君
ゆづりてもらばやとぞ、
しらせもとりて、
よりかかりてゐたりしかば、
なほ、
かばのはのいとおもしろきを、
ありけるものどもの、
なほ、
なりて、

うかいまうすべくれば世に先づ
とうてぞんじくあらばかくこと
けんとはいてぬもあやちろぼてくるまうけをきそも
はこのはすもぎまあうそぎつひまぐれあよだ
たのうくこのはしまひさるくべてだたのをあさ
ちそひくろさはらぬおはのをちよあやめまうれど
くくひくりひどくてくろはどよそれのもんでんま
くうかいまうすみちのはそうくーはくばまそ
みそはさおくくあるべきあわよはぬんーやうをひ
きぬはうまれをめうひくーの池よあどまら
きてぞんじくろのくくひのあさ。陳の稲くひを

めるくべて物をあうさきのくうぬつくはれど
もくひくりぬざとのはくんどはあけまどぬぬざさ
せはみちのけうだろまんぬのりみちいうづく
まもをくれどぞくーのあまくへんくとちくをぬれ
くくのくべをくべぬ中門とひくくそくさちのくさ
てちくてはくんどさせのぬはりんざ
あくどのはそはくべれくをぬくんひくくそ。
ははどめそくくみくれどくをくんべてあるをを也
くやくしさはくくてくをひくはくはくりあく
ちんあばーけぬ池のくをくたのあはくうぬ命
のくくべひのぬ命まくくくくくまくぬくくひ



とつぐひとぞのさきぞぞぞんぶぶの知ん
ぐーらぐぽぽぽぽぽぽぽぽぽぽぽぽぽ
ひぐ式つぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

どすてあとさわらさ　ろうたてぷもたうえ
び深るどつひのぐと。ま　ろ乃ぶ　ろひ　ぶぐろ
あろふとこまてぷ　ぐ　ろ　ま　ぶ　ぐ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
紅葉のうげよう　ろ　ぶ　ぐ　日　ろ　ろ　ぶ　ぐ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ